

平成 26 年度名草小学校 全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

(1)実施日 平成 26 年 4 月 22 日(火)

全国学力・学習状況調査は、国語・算数ともに「知識」に関する問題を主とした A 問題と「活用」に関する問題を主とした B 問題の 2 つがあります。A 問題、B 問題ともに国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の 3 領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の 1 事項に、算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の 4 領域に分かれています。

調査結果の分析より

本校の調査結果は、国語・算数とも県平均を上回り、特に算数は、全国平均を上回っていますが、国語 A について「書くこと」や国語 B についての「読むこと」、算数 B についての「図形」に課題が見られます。



＜国語科の傾向＞

○漢字を書いたり、文の意味のつながりを捉え適切なものを選択したりすることや、詩の表現を比べて読み表現の工夫を捉えることについては、良い結果となっています。

また、分かったこと・疑問に思ったことを整理しそれらに関係付けながらまとめて書くことは、全国的には課題があるため、より向上させたい内容です。

○漢字を読んだり情景描写の効果を捉えたりすることや、詩の解釈における着眼点の違いを捉えること、立場を明確にして質問や意見を述べること、付箋にかかれた内容に関係付けながら最初に持った疑問を捉えることについては、課題が見られます。

＜算数科の傾向＞

○割合が 1 より大きい場合比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることや、二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けること、作図に用いられている図形の約束や性質の理解、示された場面から基準量と比較量を捉え他を求めること、示された情報を基に条件に合う時間を求めること、繰り返されるリズムの規則性（周期）を見だしそれを基に小節数を求めることについては、良い結果となっています。

また、割合が 1 より小さい場合でも比較量の求め方が（基準量）×（割合）になること、示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断しその理由を記述すること、示された情報を整理し筋道を立てて考え小数倍の長さの求め方を記述することは、全国的には課題があるため、より向上させたい内容です。

○立体図形やその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解すること、示された計算の決まりを基に異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述すること、10 人分の量を基に 40 人分の量を相対的に捉えその関係を表している図を選択することについては、課題が見られます。



＜質問紙調査の傾向＞

○自分にはよいところがあると思う、将来の夢や目標を持っている、学校に行くのは楽しい、人の気持ちが分かる・人の役に立つ人間になりたいと思うことについて、良い傾向が見られます。

友だちの前で自分の考えや意見を発表したり伝えたいことをうまく伝えること、授業などで自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることなどについて、良い傾向が見られます。

これまでの授業で自分の考えを発表する機会があり学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていたと思っていることが分かります。

○学校図書室などを利用すること、家で自分で計画を立てて勉強すること、家で学校の授業の予習・復習をすることや地域や社会で起きている問題や出来事に関心を持つこと、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることなどについては、高い数字とはなっていません。

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと



今回の調査では、本校が現在取り組んでいる『自ら学び、主体的に活動する子どもを育てる-算科学習を通して「思考力を育てる」-』をテーマにした研究が成果を上げつつあると考えます。

質問紙調査から分かるように、本校の児童は自己肯定感が高く自分の思いを表現することに前向きな姿勢であることから、この意欲・態度を大切にしながら、より確実な力に繋げていきたいと考えます。

調査によって明らかになった個々の課題について、各学年で当該の内容・領域の学習を見直し、今後の指導に反映させることはもちろんですが、今まで行ってきた「書くこと」等の指導に加え、書いたことをもとに自分の考えを「話すこと」にも重点を置いて、各学年や個々の児童の実態にも合わせながら、次のような学習を行っていきます。

- ・学習のおもしろさに気づく課題の精選をおこないます
- ・ペア学習やグループ学習における児童相互の話し合いを充実させ、意識して発表すると共に聞くことができるようにします
- ・意見や考えを記録しながら、説明したり、討論したりしながら練り上げる学習活動を充実させます
- ・適切な評価活動を組み込み、児童が学習の進み具合を実感し学習を進められるようにします
- ・日常への活用・応用のための学習活動や知識・技能の活用を図ります

また学校全体では、さらに次の点に取り組んでいきます。

○昼休憩後の「学びタイム」をさらに充実させ、基礎・基本的な学習や発展的な学習、読書などをすすめます。

○学習の定着のため、従来からも行っている個々の児童のサポートを充実させます。

全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や各学校での指導の様子が分かります。

今後、次のようなことでさらに保護者の皆さんと連携を深め、名草っ子の力を伸ばしていきます。

- 「うちどく」…子どもと一緒に読書する時間を（「おうちで読書」）
- 計画的に家庭学習に取り組む
- 地域や社会の出来事に関心を持つ

